

平成 30 年度 第 5 回 伊勢市障害者施策推進協議会自立支援部会 議事録（要旨）

開催日時 平成 30 年 8 月 7 日（火）午前 9 時 30 分～11 時 30 分
開催場所 御薊総合支所 会議室 2-4
出席委員 市川知律部会長、嶋垣智之委員、森見典子委員、鬼頭由華委員、光山佳津美委員
欠席委員 浦田宗昭委員
事務局 障がい福祉課長、障がい福祉係長、主査
（庶務担当）伊勢市障害者総合相談支援センター基幹型職員 2 名
傍聴者 1 名

1 あいさつ

（障がい福祉課長）

本日は、地域生活支援拠点の骨子提案についていよいよ仕上げということで、よろしくご検討をお願いしたい。今後の部会のあり方についても同様をお願いしたい。

2 地域生活支援拠点整備にかかる骨子提案について

●事務局より説明。

地域生活支援拠点整備にかかる骨子提案（案）および概念図について資料に基づいて説明。

【各委員からの意見】

（委員） 提案も概念図も見やすくなった。

（部会長） 概念図の拠点地域生活支援拠点連携コーディネーター、拠点人材確保育成コーディネーターの 2 つあるが、この配置は 2 名必要なのか、あるいは、1 名で拠点の機能に含めた内容になるのか？部会の意見としてはどうまとめましょうか。まず事務局案としてはどうでしたか。

（事務局） 今までのチームと部会での議論では拠点地域生活支援拠点連携コーディネーター、拠点人材確保育成コーディネーターが必要であるとの議論はあった。機能としては当然どちらにも必要になるが、何人必要になるのかまでの議論は深まっていなかった。

（委員） 今までのチームは、骨子をまとめる為の議論であり、5つの機能の優先度を決めた。具体化はスケジュールの中で詰めていきたい。コーディネーターは専任か兼務かまでは言えない。

（部会長） コーディネーターの業務量も決まってないので、今のところは議論できないとしておく。

（委員） 目標や目的が決められてないので、決まってくればあり方が見えてくるだろう。

（部会長） 基幹型相談支援センターの役割は何かでしていたか？ コーディネーターとの絡みもある。

（事務局） 骨子提案までなので、基幹型のあり方や関連等が入っていない。

（部会長） 今後の具体的な議論に入れるというならば、今は入れなくてよいとする。

（委員） 地域生活支援拠点連携コーディネーターの役割に基幹型も入るのではないかと思われるが、今後の議論の時に検討すればよい。

（部会長） 積み残した部分があるならば、手厚く説明をした方がよい。これらを踏まえ引き継ぐ

形として本会には報告しておきたい。

添付の拠点に関する国資料までを含めて本会資料とする。

修正も不要とする。

3. 自立支援部会の今後のあり方について

●事務局より、自立支援部会のあり方について資料に基づき説明。

自立支援部会の委員構成案は、前回意見もらったので絞り込みをしている。具体的には、本会の判断を待って本会の会長と市で協議して決める。各関係団体の実務的代表と考えている。委託相談の委員は今後は運営会議のメンバーとして考えている。次回部会を、新しい委員メンバーでの9月開催はスケジュール的に困難なので、10月に次回の開催としたい。今後、プロジェクトチームが立ち上がるなら、部会の回数を減らしていく方針。

前回の部会でも人材チームを急いでとあったが、その点も議論してもらいたい。

資料には、今後のチームについて、目的・役割等を記入した。

人材チーム、就労チーム、拠点チーム、連携会議について資料の基づき説明。

拠点チームについては、事務局としては、骨子提案後、市の整備方針がはっきりと決定した後の方がチームの議論が深まりやすいのではないかという意見を持っているので、そのことも踏まえて議論して欲しい。

【各委員からの意見】

(部会長) チーム設置が具体化し、一気に協議会らしくなる。

連携会議は、チームではなく暫定的に場を作るとの意見で良いか。

(事務局) 連携会議をチーム化するかどうかという点も、部会において検討してもらおうとよい。

拠点チームからの提案は、チームとしてとの意見ではなかった。事務局が決めるというよりも部会で議論してもらいたい。

(部会長) 骨子の中にも、人材、拠点は含まれているので必要と判断する。就労チームは、部会委員からの提案として必要と判断している。前提として、チームを増やすという事は、部会委員に役割を担ってもらおうという事になる。運営会議メンバーも含めて、運営していく事になるだろう。

(委員) この通りだと思う。チーム増えると大変になると思う。

(部会長) チームが軌道に乗ってきたら、部会は減らしてチームの管理をすとか、運営会議の内容をチームに返すとかになるだろう。委託相談センターは、チームの運営に実質携わることになるだろう。

運営会議をしっかりとやっていけばよいだろう、と考える。

うなずいていただいたということで、承認という判断をする。

(委員) チームの代表は、部会委員に含まれるのか？

(事務局) 部会委員はチームにはいってもらい、パイプ役になってもらう。

(委員) 福祉就労の適正利用とは？A型またはB型？社会的就労？就労チームの範囲は？

福祉就労へ行くまでの居場所づくりも含めるのか？コンビにネットは喫茶をしており、他にフリースペースもある。福祉就労の前段階も含むようにするのか。

(事務局) 福祉就労は福祉サービスの就労支援のこととらえていた。居場所づくりを含めて考えていなかった。これからの委員の議論で決めてください。

(委員) あゆみの就労支援を入れたらどうかとの意見もあったので、広く就労支援を捉えてはどうか？

(部会長) チームの目的を整理しておいた上で、チームの主体性に任せていけるように文言を変えられると良い。部会からの委員は、障がい者支援から離れないようには気をつけてもらいたい。就労は、障害の有無に寄らず検討が必要な面はあるが、議論は外れないように。自立支援部会としての議論にしてもらいたい。就労は、国のシステムとか、特別支援学校の体験、など幅広くなってくるので、どんなことが問題か出してもらい、市が取り組む中身を検討していくとの流れが必要だろう。

(委員) 拠点のチーム開始は早いほうが良いのではないかな。

(事務局) ある程度時間が必要。本会の提案を踏まえて、市の方針が3月議会で予算承認される、それまでは市の方向が確定しない。先にチームが動き始めると、市の方針とずれた議論になってしまう心配がある。

(委員) 予算に関係する所としない所がある。登録制度とか、必要な事は先に議論始めても良いのでは、と考えている。来年3月では間が空きすぎてしまうのではないかな。

(委員) 施策本会でどこまで決まるのか。

(事務局) 施策本会あくまで提案段階。その後、市としての整備方針を検討する

(部会長) 市の整備方針と、地域の関係機関が実務の中で感じていることを双方つき合わせて調整していくことが必要。市の方針に合わせた議論をして下さいだけなら、チームの意味はない。

地域の声を市が把握するためには、チームが必要だと思う。チームでできるところから議論していったらどうか。

(委員) 市の方でなんとなくの方針があれば、それに沿いながらチームを進めていけると良い。

(部会長) 最後は、委員の協力が無ければできない事業。部会としては、出来あがってくるものを待っていればよいわけではない。

(事務局) まずは、ある程度の方向性が必要。方向性は出来る限り部会で報告する。部会での議論の中で、チームの必要性を議論してもらいたい。まずは本会に提案してもらおう。

(部会長) 部会としては、予算の確定まで待つのではなく、チームで議論が必要という意見が多い。

(事務局) 予算に関連しないようなところからしてもらうのは良いが、すぐのスタートは待ってもらいたい。今日の段階では、スタート時期は、協議していくとしてももらいたい。

(部会長) 部会で中心を担う人たちの意見ももらって、スタート時期は決めていく方が良さだろう。

連携会議については、どこが中心を担っていくか、今日結論は出ないだろうが、今日の部会議論を踏まえて、運営会議で議論を詰めて、次回部会へあげてもらおう。

(事務局) 事業所連携会議について、参考までに、介護分野は、もともと事業所が自主的に集まり、在介が主になって動き始めたと聞いている。運営は事業所の中で交代でしている。その運営を市がフォローをしている。障がいのほうでは、きっかけとして当部会の拠点の報告会があった。

(委員) 介護事業所連絡会は、資質向上のための勉強のために集まり始めた。事例検討や新事業所の紹介など。

(部会長) 事業所からの事例検討会にきてほしいとのニーズは高い。

自発的であることは良い。事業所連携と資質向上は外すわけにいけない。

(委員) サービス事業所さんから、他の事業所が何をしているか分からない、その中で自分たちが何を担えばよいのか分からないと聞く。

(委員) 大変というイメージが有るので、当面、運営会議が事務局をやるのが一番良いのではないかな。

流れができるまでは、市と委託相談が中心になって開催するということがよいのでは？

(部会長) 組織化が難しい課題。種別がいいのか、エリアごとがいいのか、計画を入れるべきか。

対象者が広い中で、取りまとめが必要。そこから研修システムを作っていくとか、それが発展していく設計図が必要。主体的な会議にならずにイベントになってしまうこともある。当面は、コアメンバーでやっていくべき。

他のチームに比べて、担当委員と事務局と部会長でとかではしんどい。最初はイベントとしてやっていこう。まずは運営会議で企画をしてもらって、部会で議論するパターンがスムーズだろう。

一旦部会としては、運営会議を中心に具体的設計図を。複数年の計画を作ってもらい運営会議で諮った案を部会でメンテナンスしてからスタートを切れるように。長期的な視点も持っておくことが必要。何を目的としていくかをしっかり絵を描いておくと良い。

(部会長) 委員の拡充、チームの拡充が進むことを踏まえて、部会の頻度を減らしていくという事でよろしいか。

気になっているのは、前回の報告会后、部会では次の報告会を年度内にすることになっている。部会の報告会のあり方を、少ない回数の中で詰めることになる。やると言う前提で、運営会議で詰めてもらい、部会で揉む形でしてもらえないかな。

4. 第4期障害福祉計画実績報告について

●事務局より、本会報告の内容について資料を基に説明。実績報告について部会委員からの意見を求める。

【各委員主な意見】

(部会長) 2点あります。地域移行の成果について、前々回の施策本会での障害福祉計画の評価の際にも、施設から地域移行ができた方もみえるが親の高齢化などで施設入所せざるを得ない件数があがっていて、今回と同様の傾向であった。そのことについて本会において施設入所をさせない取り組み、安定した地域生活の継続を支援するという事になっていたと思う。入所予防という言葉が適切かどうかだが、前回にも意見があったのに同様の状況であるということについて何らかの意見を上げておいたほうが良い。

また、就労移行支援事業について。就労移行支援決定は2年間で1年間の延長は可能、その際は延長の申請を審査会にあげることになっているが、市ではこの3年間で延長の申請がどのくらいあがっていたか。私に関わる審査会では就労移行支援の延長を審査会にあげる時は過去2年間の個別支援計画を提出してもらっている。個別支援計画が就労支援にふさわしい計画になっていてモニタリングがあってそれをふまえて審査することになっている。事業所のなかにはB型のような日課を2年間続けて、更にもう1年同じ計画で延長しようというのな

ら B 型利用と同じである。移行支援とは専門的な取り組みをするから就労継続支援よりも単価が高くなっている。就労就労移行支援事業所としてのプランが必要である。1 年延長することで、一般就労に近づける見込みを具体的に提出するべきである。就労移行のための計画が適切になっているかを、例えば審査会等でみてもらうなどについて、『協議会等意見』に意見を追加してもらおうと良い。

(委員) 自分の関わっている方も、入所にならざるを得ない方が複数名いた。施設入所からグループホームへの移行も支援しているがグループホームに空きがない現状。グループホーム利用中の方についての一人暮らしに向けての支援など、グループホームを空けるという努力もしている。

(委員) ヘルパー利用できやすいとまた違う。早朝、夜間とか手厚く入ってもらえると違う。地域資源があれば入所でなくて良い方も多し。地域移行にも、グループホーム、ヘルパーなどの地域資源が必要。事業所が無いと地域で暮らしていけるかどうかにか大きく関わる。

(委員) グループホームの需要は多いのに、なぜか空いてないことが多い。定期的に空きを確認している状況である。

(委員) 空いていても利用に結びつかないこともあると聞く。マッチングの仕組みも必要ではないか。市のほうで情報集約など確認していくとよいのではないか。

(委員) 就労については、企業側からの情報が特定の事業所にしか伝わらない時がある。また企業側は何度も同じことを伝えてくる。マッチングがうまくいかないと、障がい者雇用はハードルが高いと思ってしまう。

(部会長) 障害者就業・生活支援センターのケースワーカーやハローワークのコーディネートの役割が重要になってくるだろう。障害者就業・生活支援センターは、地域の仕組みづくりにも動くべき。

(委員) 就労情報を集約することも必要。

(部会長) プロジェクトチームが出来れば、おのずと意見出てくるだろう。チームではパンフ作りだけにならないようにはしてほしい。

(委員) 企業側の求人情報と就労支援との連携のやり方を明確化していくこととか、就労マルシェなどの企業と障がい者との出会いの場を増やすとかの意見を上げられないか。

(部会長) 以上いただいた意見をもとに今後さらに取り組むということ、『協議会等意見』にももう少し具体的に書き込んでもらうということはどうでしょうか。「移行支援事業所の底上げに努める具体的な内容には、個別支援計画を確認することなどの意見を入れられないか検討してほしい。また、改善のところに、就労に関して企業、市民、障がい者が出会える場を増やしてもらうという意見を入れてもらうということはいかがでしょう。

(事務局) いただいた意見をもとに、整理させていただきます。

5. その他

(事務局) 今後の部会のスケジュールについては未定。改めて調整します。